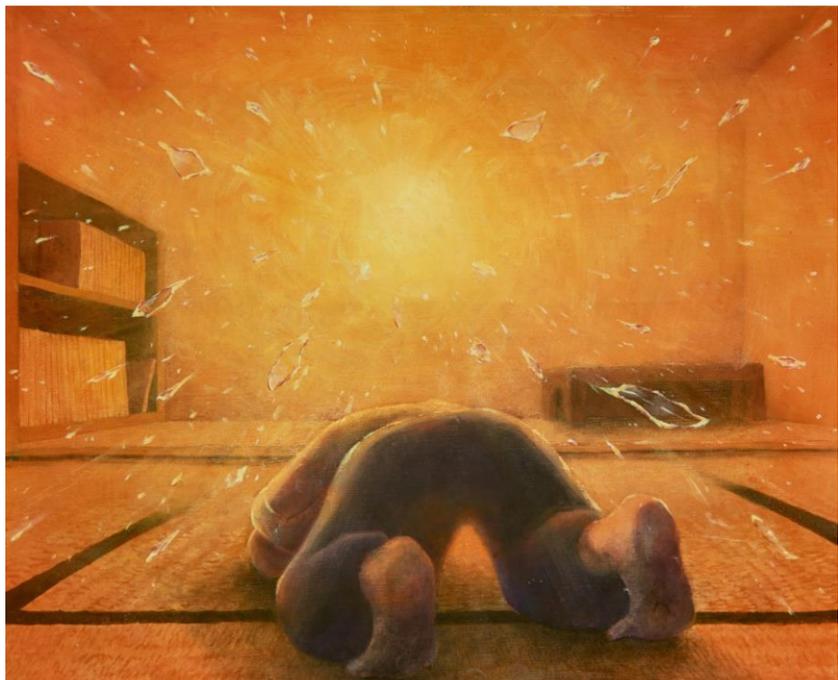


ヒロシマ

「原爆の絵」展

Atomic Bomb Drawings



「閃光」

作/ 証言者: 笠岡 貞江 制作者: 小川 美波 所蔵/ 広島平和記念資料館



「ヒロシマの最も長い夜(地獄の炎ときのご雲の残塊)」

作/ 証言者: 中西 巖 制作者: 河元 愛香 所蔵/ 広島平和記念資料館

平和の想いを受け継ぐ ～未来へのメッセージ～



広島の高校生が

被爆体験証言者の



記憶や思いに寄り添い、描き伝える

観覧
無料

令和6年(2024)

6月1日(土) ~ 30日(日)

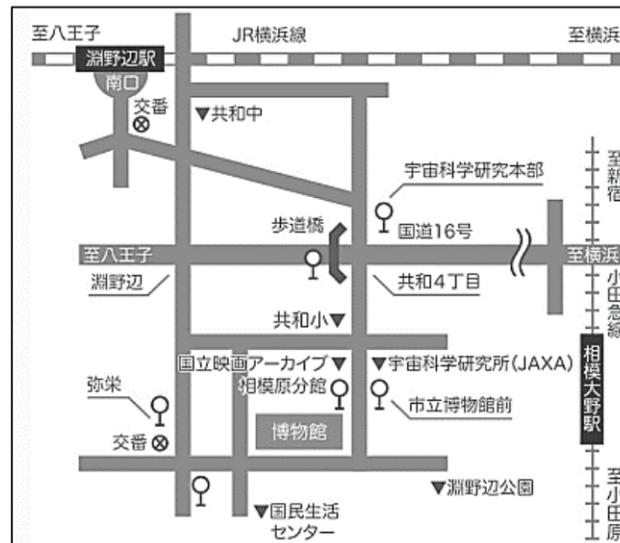
午前9時30分から午後5時まで (月曜休館)

開催場所

相模原市立博物館
特別展示室

相模原市中央区高根3丁目1-15

25・26日は
臨時休館



主催: 相模原市 企画: 市民平和のつどい実行委員会
お問合せ: 相模原市 市民局 国際課 TEL: 042-707-1569
メールアドレス: kokusai@city.sagamihara.kanagawa.jp

— 高校生が被爆体験を絵に描く —

もとまち

基町高校の生徒と被爆体験証言者との共同制作による「原爆の絵」

広島平和記念資料館では、広島市立基町高等学校普通科創造表現コースの協力を得て、2007年度(平成19年度)から、被爆体験証言者と同校生徒が共同し、証言者の記憶に残る被爆時の光景を高校生が絵に描き、当時の状況を伝える「原爆の絵」の制作に取り組んでいます。

この取組は、被爆者が高齢化するなか、被爆の実相を絵画として後世に残すこと、そして、絵の制作を通して、高校生が被爆者の思いを受け継ぎ、平和の尊さについて考えることを目的として行っています。

何度も打ち合わせを重ねながら制作される絵は、当時の惨状を^{さんじょう こくめい}克明に描き出すものであり、また、証言者の記憶や思いに高校生が寄り添い、双方の気持ちを共に伝えるものです。

けいしょう

被爆体験の継承の一つの形として、一人でも多くの方に絵をご覧いただければ幸いです。

[制作方法]



① 証言者の被爆体験を詳細に聴き取る。



② 証言者が描くイメージ図や、わずかに残る写真資料をたよりに、構図を練る。



③ 色を重ねながら、光景を忠実に再現していく。



④ 1年の制作期間中、何度も証言者が絵を確認し、直しながら完成を目指す。